

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472700277	事業の開始年月日	2001年1月5日	
		指定年月日	2021年1月5日	
法人名	社会福祉法人永楽会			
事業所名	グループホームそよかぜ			
所在地	(〒 981-3311) 宮城県富谷市富谷桜田1-11			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	9名	
		ユニット数	1	
自己評価作成日	2023年1月25日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームそよかぜは「とうみやの杜」の敷地内に位置しています。広い敷地内は、緑が多く散歩には最適な環境です。他施設との交流を図りながら、地域の行事等に参加し、地域の一員として生活が出来るよう地域の方との顔馴染みの関係を大切にしています。また、リハビリや余暇活動の充実を図る事で安心して「その人らしく」生活が出来るよう支援しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2023年2月9日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

そよかぜ 基本方針

1. 人生の先輩と共に思いやりと笑顔を持って楽しく歩みます
2. 本人の歩調に合わせた自由な時間を提供します
3. 地域の一員として気軽に交流が出来るようにします

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

1980年に設立した母体法人「社会福祉法人永楽会」は、大和町に本部を置き、大崎市や富谷市などの宮城県内に特別養護老人ホーム、デイサービス、グループホーム、障害者支援施設など、社会福祉施設を運営している。事業所がある大崎市や富谷市などの自治体から地域包括支援センターの運営を受託している。「グループホームそよかぜ」は、1ユニットの平屋建造りで、周辺に市役所、中学校、コンビニがあり、近くに公園もある生活しやすい環境である。

【事業所の優れている点・工夫点】

【優れている点】法人の理念を基にそよかぜの基本方針を掲げ、一人ひとりの想いに沿ったケアを行っている。運営推進会議がコロナ禍で集まって開催ができない状況だが、事業所の運営状況の他に、レクリエーションや行事などでの入居者の笑顔や楽しい雰囲気の写真も報告書に掲載し、運営推進委員、家族に送付して報告をしている。職員の資格取得にも協力的に支援しており、介護福祉士の職員が多い。

【工夫点】コロナ禍でも感染予防対策を徹底しながら、季節毎に行事やドライブなどを行い、入居者のこもりがち心のケアに配慮し笑顔を引き出せるよう取り組んでいる。また、地域との交流が持てない状況が続き、連携が希薄になってきたため、防災訓練などの際に連携できるよう検討している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	11 ~ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	16 ~ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ~ 68	

事業所名	グループホームそよかぜ
------	-------------

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム そよかぜ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	とうみやの杜の理念に基づき、独自基本方針を作成しそれに基づき支援を行っている。また、所内に掲示しており日々確認できるようにしている。ケア会議等で確認し合い実践している。	法人の基本理念を基に、「グループホームそよかぜ」の基本方針を作成している。毎年4月のケア会議で理念について振り返り、確認している。理念は常に意識することができるよう廊下に掲示し、介護支援に生かしている。部屋で過ごすのが好きな人、みんなと一緒にいるのが好きな人、一人ひとりの思いを大切にしたいケアを心掛け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防に努めており、例年実施していたイベント参加や交流は出来ていない。代わりにオンラインで保育園との交流会を実施している。	町内会に加入している。県と市の広報紙が届くので、入居者にも回覧して一緒に読んだりしている。コロナ禍の為ボランティアの受け入れ、地域住民参加のイベントを中止し、秋祭りなどの「お祭り」は、入居者と職員で実施した。年2回オンラインで保育園と交流会を行い、画面の子供の顔を見ただけで入居者から笑顔が溢れ喜んでいた。保育園からは一人ひとりに写真立てのプレゼントがあり、入居者の部屋に飾っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防に努めており、地域との交流は難しい状況にある為、民生委員に運営推進会議の資料を送付して、認知症の人の理解や支援方法を地域の方々に向けて伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防に努めており、実際に集まったの会議は実施していない。2ヵ月毎に会議資料を送付し、入居者の状況・取り組みの報告を行い、電話で意見を頂くようにしてサービスの向上に活かしている。	メンバーは、市長寿福祉課職員・民生委員・家族・入居者・職員で構成し、2ヶ月ごとに運営状況、事業所の行事などの様子は写真も交え、今後の予定も記載した文書を郵送し、感想や意見を聞いている。「頑張ってください。必要な時は手伝います」などのコメントが寄せられた。外部評価の目標で運営推進会議に家族の参加を掲げていたが、コロナ禍のため行われなかった。対面での会議が再開したら、運営推進会議のメンバーにも居室に空きが出た際は紹介依頼をしたいと検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告、推進会議、電話での状況報告をしており、場所も近隣である事から時折助言を頂いている。	市職員が運営推進会議の構成員で、運営状況を報告した際に助言を得ている。また都度、市へ必要な報告を行い、入居者の状態について相談したりしている。市から、緊急性がある人の入居依頼などがあり連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員同士で話し合い、個々の状況に応じ身体拘束を行わない支援を工夫している。とうみやの杜のリスクマネジメント及び身体拘束廃止委員会内においても話し合いが行われ、職員同士で情報共有をしている。	身体拘束廃止の適正化の指針を作成している。法人の各施設の代表者がメンバーとなり、身体拘束廃止ならびに虐待防止委員会を年4回（3ヶ月に一度）開催している。話合った内容はケア会議で報告し、情報共有している。身体拘束廃止・虐待防止の学習は職員の日程を調整し、全員が参加し研修できるように取り組んでいる。防犯上玄関は21：30～翌朝6：40頃まで施錠している。外出要求の強い人は職員が同行し散歩している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	とうみやの杜のリスクマネジメント及び身体拘束廃止委員会内においても話し合いが行われ、職員同士で情報共有をしている。	敷地内の同法人事業所と合同で、身体拘束廃止と一緒に虐待防止についても学習している。6月実施した虐待防止の研修では「30項目の自己点検シート」を活用し、理解を深めると共に自身の行動点検を行った。声が大きくなったり、早口にならないよう、都度注意するよう努めている。管理者は職員との面談時に、自己評価や目標達成の確認を行い、職員に指導や助言をしている。職員の精神的な負担が軽減できるよう、相談窓口を設置している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、今年は実施できていないが、とうみやの杜にて、人権擁護委員会の方に職員向けの研修や、入居者を対象にした相談会が行われており、職員や入居者に参加してもらい、意識の向上に努めている。また、研修に参加出来ない職員に関しては、ケア会議等で情報共有をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や申し込み・入居時に説明を充分に行い理解を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者との普段の会話、家族面会時や電話などで積極的に意見や要望を聞き、ケア会議等で話し合いを行い、運営に反映させるように努めている。	家族会は設けていないが、家族からの意見や要望は面会に来た時に聞くように努めている。家族と入居者との面会は、コロナ禍でも感染予防を徹底し窓越しで15分くらい実施している。第三者委員を委嘱している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のケア会議や日頃の申し送り等で職員の意見を聞き、運営に取り入れ反映させる様にしている。	職員からの意見や要望は、ケア会議などで聞き、改善に向けて検討している。コロナウイルス感染症予防対策で業務内容が増え職員の負担が大きくなったので、ケア会議で対策を話合った結果、昼食を外注し負担を軽減するようにした。勤務シフトは職員の要望や、年8日以上有給休暇がとれるように勘案し、サブリーダーが作成している。介護福祉士の資格が取れるように協力し、資格取得の研修の半分は、業務扱いとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で協議し、努力している。定期的に人事考課を実施し、職員の能力を考慮した上で、その能力が発揮できるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に人材育成・研修企画検討委員会を設置し、育成に取り組んでいる。法人内外の研修を受ける機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内のグループホームで運営・基準算定勉強会を行い、開催場所を輪番などとし、サービスの質の向上に努めている。	同法人の事業所全体で合同研修を行っている。同法人内の3つのグループホーム間で、内部監査を行い業務内容について確認し、情報交換も行っている。また、年に2回集まり話合う機会を設けている。現在、タブレットを活用して介護記録を行うことを検討し、庶務日誌のフォーマットも統一する方向で話合っている。外部との交流は、富谷市のケアマネスタッフ会議にオンライン研修で参加している。	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が何を求めているのか、何をしたいのか、不安な事はないかじっくりと聞く。普段の生活からコミュニケーションを多く図り安心して過ごせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査や契約時から不安な点や要望等を伺う。その後、面会時や電話で、不安な点や意向の確認を行ない信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査や契約時の話し合いの中から今、何を求めているのかを見極め、サービスに活かせるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や洗濯物干し・たたみなどを一緒にし、生活を共にしている事を感じてもらうように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話で話せるような環境を作り、互いに支え合う関係を保てるよう努めている。特に面会の際は積極的に家族と向き合うようにしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防に努めており、馴染みの場所に出掛けたり、家族以外の面会には実施していない。	気持ちが不安定になると家族に電話したくなる人がおり、家族に電話をしたり、落ち着けるよう支援している。今はコロナ禍で家族以外、友人とは面会ができないでいる。外食の好きな人がいて馴染みの店に通っていたが、今は自粛している。馴染みの理・美容院には出かけられないため、全員訪問理容を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の特徴や関係性を把握し、食卓での座席の配置や支援の順番等に配慮し、互いが支え合う仲になるように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了以降も気軽に相談に乗ったり、訪問して頂けるような環境づくりに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	基本的に入居者主体の支援に努めているが、意思表示などが困難な場合は家族と相談した上で支援を行っている。	アセスメント時に、本人や家族などから意見を聞き支援に活かしている。意思表示の難しい入居者は、生活歴から好き嫌いを確認したり、日常の様子から思いを汲み取っている。帰宅願望が強い人が家族宅に外泊できるように支援し、落ち着いた事例がある。地域の「食べて応援クーポン」があった時、みんなが好きなお寿司をランクアップして楽しんだ。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活習慣や環境・趣味等を本人・家族から聞き、日々の生活に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活記録を作成し、日々の状況把握に努めている。又、入居者が出来る事を担当職員、家族と話し合っている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が入居者や家族の意向を組み入れた介護計画を作成している。3ヶ月に1度、担当の介護職員がモニタリングを行い、ケア会議で確認し合っている。	3ヶ月に1回、担当職員がモニタリングを行い、ケア会議で話合っている。基本半年に1回、介護計画を見直している。アセスメントシートとケアプラン作成のための検討課題用紙からの情報に基づいて、介護計画を作成している。コロナ禍のため電話で家族の意見を聞き、介護計画に活かしている。遠方の家族には介護計画書を郵送して、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録を作成し、日々の状況把握に努めている。また、個々の生活記録を支援の見直しや介護計画に生かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の体調変化には随時対応し、困難な事例が生じた際には他事業所や支援センターに相談するなどして解決に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防に努めており、地域資源を生かして生活したり、出掛けたりすることは実施出来ていない。施設内で実施出来る行事を行い、楽しんでもらえるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診をしている。状況に応じて家族の協力を頂き、職員が付き添い主治医に相談している。	全員協力医療機関がかかりつけ医で、月に1回ないし2ヶ月に1回職員が同行し通院している。状態に変化があった時は、随時受診できるように連携を図っている。週1回口腔ケアと月1回治療するサイクルで、訪問歯科医が来訪している。同法人の特別養護老人ホームの看護師と常に連携体制ができるようにしており、入居者の急変時にはアドバイスを受けた。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム内に、看護職の配置は無い為、介護職が日々の健康管理を行っている。急変時や、処置が必要な場合等は隣接の特養の看護師に相談や協力を要請する場合もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には必要な情報を提供し、入院状況の伺い・経過の聞き取りをこまめに行なっている。又、施設の嘱託医への協力を要請している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、事業所でどこまで出来るのかを家族に説明している。状態の変化に応じて、主治医・家族を交え、今後についての話し合いを行っている。	看取りに関する指針を入居時に説明し、「終末期の看取り等について（事前確認書）」について確認を得ている。事業所での看取りは昨年はない。終末期や状態が悪化した際は医師と相談し、同法人の隣の特別養護老人ホームを紹介するなど、連携体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員対象の救命救急講習でAEDの取り扱いや応急手当の方法などを学んだり、事故予防についての勉強会に参加して、急変や事故発生時に備えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を設置し、マニュアルの見直しや避難訓練の実施計画を行なう。日中・夜間想定火災避難訓練や地震想定・水害想定避難訓練を実施している。	火災、風水害、地震対応マニュアルを作成している。防災委員会を設けて、6月に通常の訓練、11月に夜間想定避難訓練を行い、2月には水害の避難訓練を実施した。避難場所は近くの中央公民館にしている。防災設備等は半年に1回業者が点検し、非常時の食料は3日分を用意している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を持った上で、一人ひとりに合った声掛けや支援を工夫している。傾聴する事を心掛けている。	入居時に本人から呼び方を聞き、苗字や名前に「さん」付けて呼んでいる。入居者の部屋に入る際は、必ずノックや声がけを確認を得ている。排泄介助は入居者の意思を尊重し、さりげなく声かけをして自分のできるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との会話や日常生活の中で、本人の思いや希望をくみ取るように心掛けている。また、時間をかけて意思決定ができるように心掛け支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人のペースを大切に、一日を楽しく希望に沿って安心した生活が出来るよう努めている。一日一回は外を散歩したり、体操を行うなど実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じた好みの化粧品を購入している。また、本人の好みや季節感に合わせて、職員と一緒に着替えの服を準備するなどの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しみながら食事が出来るよう行事食、出前・持ち帰り食を取り入れている。食事の準備や後片付けも一緒に行っている。入居者の食べたい物を聞き取り、担当職員がメニューに反映させている。	食事は配食サービスを利用しているが、ごはんのみそ汁は職員が用意している。食材を近くの商店に発注し、行事食をみんなで作り楽しむこともある。お寿司の出前を頼んだり、月2回隣の障がい者施設の弁当を頼んでいる。地域の「食べて応援クーポン」を利用し、ランクアップしたお寿司をみんなで楽しんだ。普通食がとれなくなった場合は、同法人の特別養護老人ホームの栄養士に相談している。片づけを手伝う入居者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を毎日の生活記録に記録し、状況・状態に応じて栄養補助食品や経口補水液を使用しての支援を行っている。また、毎日の献立には多種類の食材を使用するよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床・就寝前に口腔ケアの支援を行っており、一人で可能な方は声掛け・見守りを行っている。希望に合わせて、週1回の歯科衛生士による口腔ケアと、月1回の歯科医による往診も行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の記録から個人個人のパターンを把握し、可能な限り、布製下着の着用や、トイレでの排泄支援を行っている。	日中は利用者の状態に合わせリハビリパンツや布パンツを使用し、定期的に声がけや誘導することで、自分でトイレで排泄ができるよう支援している。夜間帯はポータブルトイレを利用したり、夜間用のパットを使用する人もいる。おやつにヨーグルトや乳酸菌飲料などを提供し便秘の予防に努めているが、医師が処方した便秘薬を服用している人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分、リハビリ等の運動の他、下剤処方での対応など個々の状況・状態に応じて対応している。又、乳製品や、乳酸菌飲料を定期的に飲むようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意向を聞き、希望時にゆっくりと入浴を楽しめるように支援を行っている。	入浴は週2～3回を基本に、湯を毎回交換し午後に入浴している。ゆっくり入浴したい入居者の希望に対応している。季節に合わせて菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいる。座位がとれない人は、清拭を行い清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況・状態に応じて昼寝をしたり、睡眠を妨げないように室温や掛物、物音などに配慮している。寝具についても定期的に洗濯を行い、清潔を保つようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の為、服薬支援の際一人ずつ名前を確認し、細心の注意を払い服薬の支援を行っている。症状の変化については、職員間で情報を共有し確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備・後片付けや洗濯物干し、洗濯物たたみの手伝いなど役割を持てるようにし、本人の希望に合わせた、趣味や散歩などの支援を行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防に努めており、例年実施していた買い物、ドライブなど希望に沿っての外出支援は出来ていない。	年間計画を立て、桜、菜の花、芍薬見学などのドライブを実施している。初詣も計画したが雪で中止した。外出は、無理強いせず希望者のみの参加としている。利用者から希望を聞いており、今年度は選挙の投票に行った人もいる。コロナ禍でも事業所内で楽しめるよう、季節ごとの行事、敬老会、クリスマス、忘年会、豆まきなどをみんなで行った。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の管理能力に応じて、個人で現金の管理が出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は食卓や玄関等の共有スペースに設置しており、いつでも電話が掛けられるようになっている。また、掛ける事が出来ない方には職員が手伝っている。手紙や年賀状のやり取りができるように支援をしている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花や絵を飾ったりするなどして、季節感や家庭的な暖かみを出すように工夫している。	共用空間は、日当たりが良く明るい。室温は22～24度に設定し、加湿器を2台置き職員が調整している。小上がりの畳の部屋には炬燵を用意し、家庭的な雰囲気の中で入居者がくつろいでいる。廊下にソファやベンチを設置し、思い思い好きな場所で過ごせるようにしている。時計や暦も見やすく、廊下に掛け軸を飾ったり生花を飾ったりし、ゆったりした空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせるような開放的な空間を作ると共に、腰掛ける場所を多く配慮する事で、気の合う入居者同士が談話されている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が以前使用していた家具や仏壇などを持ち込み、居心地良く、安心して生活ができるように家族に協力を頂きながら、住環境を整えている。	居室は畳の部屋とフローリングの部屋があり、エアコン・洗面台、押し入れがある。入居者は馴染みのイスやテーブル、テレビや冷蔵庫、仏壇などを持参し、安心して居心地良く過ごせるような部屋にしている。職員が掃除と消毒は毎日実施し、洗濯した衣類の整理整頓は入居者と一緒に行っている。入り口には表札が設けられ、その裏面には「避難完了」と記載し、緊急時対応にも兼ねられるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを配置し、居室には表札を掲げている。生活に必要な物を直ぐに取り出せるよう工夫している。		